

社会学部報

- ◇昭和51年5月26日 学部研究会 発表者 本出祐之教授「英国社会福祉の印象」
- ◇昭和51年6月30日 学部研究会 発表者 ブラウン大学 ロバート・M・マーシュ教授「Organizational Commitment and Lifetime Commitment」
- ◇昭和51年9月29日 学部研究会 発表者 海野道郎専任講師「偏見の構部—在日朝鮮・韓国人に対する態度を中心として—」
- ◇小関藤一郎教授は昭和51年5月5日神戸のフランス総領事ブフアンドー氏邸において、フランス政府の学術功勞勲章パルム・ザカデミー・オフィシェ章の伝達を受けた。これは小関教授の長年にわたるフランス文化（社会学）紹介ならびに日仏学術交流に対する貢献に対するものである。
- 海外出張**
- 杉山貞夫教授 昭和51年7月5日から7月22日まで、第6回国際人間工学会連合大会に同連合理事および講演者として出席、航空人間工学研修旅行、米人間工学研究施設見学のため、アメリカへ。
- 嶋田津矢子教授 昭和51年6月25日から8月13日まで、国際学会出席および社会福祉施設訪問のため、ペルトリコ、アメリカ、カナダへ。
- 山路勝彦専任講師 昭和51年7月16日から7月31日まで、社会人類学的予備調査のため、韓国へ。

会員の名著

- 萬成博教授「Modenization and the Japanese Factory」
（ロバート・M・マーシュ教授と共著）昭和51年
Princeton University Press.
- 小関藤一郎教授 ジェン・フラスチュ著。「開かれた時間」（訳）昭和51年7月、川島書店。

学会消息

◇日本行動計量学会総会

第4回日本行動計量学会総会は昭和51年9月2日(木)から4日(土)まで、東京大学経済学部で行なわれた。本学からは海野道郎専任講師が、「偏見の構造——在日朝鮮・韓国人(C)および精神病院に入院したことの有人(S)に対する態度——」について、東京工業大学の鏡豊氏と共同発表を行なった。

◇関西社会学会大会

関西社会学会第27回大会は昭和51年5月29—30日追手門学院大学で開催された。第一日の理論部会(Ⅱ)で、小関藤一郎教授は「デュルケームにおける国家の問題」について発表し、第二日の地域社会部会では余田博通教授が司会に当たったが、この部会で大学院生三人の発表があった。それは曾我部信子の「村落における家族変動—大和郡山市若槻を事例として—」、井上文夫の「村落と同族」および奥田憲昭の「アメリカにおける郊外理論の検討」であった。

執筆者紹介 (掲載順)

| | | | |
|-------|-------------------|------|--------------------------|
| 倉田和四生 | 社会学部教授 | 真鍋一史 | 社会学部助教授 |
| 村上 薫 | 社会学部大学院 修士課程修了 | 海野道郎 | 社会学部専任講師 |
| 小関藤一郎 | 社会学部教授 | 鏡 豊 | 東京工大工学研究科社会学専攻 博士課程在学 |
| 定平元四良 | 社会学部教授 | 杉原 方 | 社会学部教授 |
| 青山秀夫 | 社会学部教授 | 高田真治 | 社会学部専任講師 |
| 山本武利 | 社会学部助教授 | | |

社会学部研究会々員

| | | | | |
|---------|-------|--------|-------|--|
| 会 長 | 倉田和四生 | | | |
| 評 議 員 | 小関藤一郎 | 定平元四良 | 本出祐之 | |
| | 遠藤惣一 | 津金沢聡広 | 紺田千登史 | |
| 会 計 監 査 | 牧正英 | 張光夫 | | |
| 書 記 | 藤田耕一 | | | |
| 普 通 会 員 | 杉原 方 | 余田博通 | 田中国夫 | |
| | 西尾 朗 | 嶋田津矢子 | 萬成 博 | |
| | 領家 穰 | 山中良知 | 杉山貞夫 | |
| | 半田 一吉 | 武田 建 | 青山秀夫 | |
| | 佐々木 薫 | 森川 甫 | 中野秀一郎 | |
| | 中山慶一郎 | J・ジョイス | 宮田満雄 | |
| | 船本弘毅 | 春名純人 | 村川 満 | |
| | 山本武利 | 真鍋一史 | 山路勝彦 | |
| | 高田真治 | 海野道郎 | | |

関西学院大学社会学部研究会々則

第1条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第2条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。

第3条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行なう。

1. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
2. 研究会および講演会の開催。
3. 研究叢書の刊行。
4. その他本会の必要と認める事業。

第4条 本会の会員は次の3種とする。

1. 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師、および助手。
3. 賛助会員 以上の外申込のあったもの。

第5条 普通会員は年額14,400円、賛助会員は年額10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第6条 本会員および本会社会学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年額1,200円とする。

第7条 本会に次の役員をおく。

1. 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
2. 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
3. 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
4. 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
5. 書記は、社会学部事務長に委嘱する。

第8条 本会役員任期は2年とする。重任を妨げない。

第9条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算決算は総会の承認を得なければならない。

第10条 総会は毎年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第11条 本会は事務所を本学社会学部におく。

第12条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1976年11月25日 印刷

1976年12月1日 発行

編集発行人 倉 田 和 四 生

印刷所 尼崎印刷株式会社
電話大阪(06)481-0707
〒660 尼崎市北大物町25

発行所 関西学院大学社会学部研究会
西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798)(51)0912(代表)
(51)3512(直通)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 33

December 1976

The Study Association of Sociology Department

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

Nishinomiya, Japan
